

第3章

女性・青年組織、生産組織、団体のあゆみ



JAきたみらい青年部

設 立 平成16年2月19日
部員数 215名
部 長 昆野 将之

主なできごと

2013.2.17	JAきたみらい青年部第9回通常総代会
2013.3.10	TPPから「地域」「経済」「生活」を守る オホーツク緊急集会
2013.7.12	スポーツ交流大会「ソフトボール」
2013.11.14	ヨーロッパ農業視察研修（ドイツ・フランス14～22日まで）
2014.2.17	JAきたみらい青年部第10回通常総代会
2014.6.2	第1回部員交流視察研修（2～3日まで）
2014.12.28	JAきたみらい青年部学習会「なぜJAグループに改革を求められているか」
2015.1.15	東北・北海道地区JA青年部大会 遠藤正人氏（北見）代表スピーチ
2015.2.18	JAきたみらい青年部第11回通常総代会
2015.3.22	「TPPから命と暮らしを守ろう」北海道緊急大集会
2015.6.11	遠紋・北常ブロックスポーツ交流大会（湧別町）
2015.9.17	つばめグリル（東京）産地交流会
2015.10.17	オホーツク農業祭2015
2016.2.15	JAきたみらい青年部第12回通常総代会
2016.4.5	北海道JA青年部研修会
2016.8.8	教員を対象とした農村ホームステイ事業（8～9日まで）
2016.12.21	JAきたみらい青年部学習会 「社会人としての身だしなみについて ～スーツの着こなし方～」
2017.2.13	JAきたみらい青年部第13回通常総代会
2017.3.9	オホーツクJA青年部協議会第67回定期総会
2017.11.20	海外農業視察研修（オーストラリア20～26日まで）
2017.12.12	三組織合同視察研修（12～14日まで）
2018.2.1	JAおきなわ 南北交流（援農）
2018.2.14	JAきたみらい青年部第14回通常総代会
2018.5.10	北見市食育事業「出前授業」（美山小学校）
2018.6.29	部員職員スポーツ交流会
2018.7.21	婚活事業「婚活ツアー」（21～22日まで）
2019.2.13	JAきたみらい青年部第15回通常総代会
2019.3.19	共同研究農業プロモーション事業 農作業現場見学
2019.6.6	JAコネクト意見交換会
2019.9.24	北見市農泊推進協議会 設立総会参加
2020.2.7	JAきたみらい青年部第16回通常総代会
2020.6.22	地元農産物PR事業 どん焼きPJ
2020.7.18	農業PRオホーツクの食と料理トークライブ
2020.8.9	農泊推進事業 モニター体験（端野 斉藤正廣氏宅）
2021.2.15	JAきたみらい青年部第17回通常総代会（書面議決）
2021.6.7	農業PR JAきたみらい紹介ランディングページの制作・YouTube広告CM開始
2021.8.7	農泊推進事業 「じゃがいも掘り体験 じゃがバターツアー」（端野 斉藤正廣氏宅）
2021.12.17	JAきたみらい青年部学習会「メンタルヘルスについて」ZOOM開催
2022.2.15	JAきたみらい青年部第18回通常総代会（書面議決）
2022.3.24	役員会（ペーパーレス開始）
2022.7.16	北見市農泊推進事業 ファーマーズツアー開催
2022.11.20	農作業事故撲滅フラッグ完成（組合員全戸へ配布）
2022.12.17	婚活事業 「トナコン」開催

「激動の時代を乗り越えるために」

JAきたみらい青年部

部 長 昆野 将之

きたみらい農業協同組合が設立20周年を迎えられたこと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃から青年部に対しまして、多くの組合員や役職員、関係各位のご尽力やご指導、ご鞭撻を賜り心より感謝申し上げます。

青年部におけるこの10年を振り返ってみますと、平成25年に328人いた部員は令和5年に215人と100人以上減少し、それに伴い8地区にそれぞれあった支部は3支部に集約されました。また、令和2年に発生した新型コロナウイルスの感染拡大は我々の活動を停滞させ、一時的ではございますが部員や地域とのつながりを希薄化させました。

農業情勢に目を向けますと、世界情勢の激化や物価高騰、気候変動など様々な苦難に直面しています。

そのような激動の時代に対応し、安心安全な食料を安定して供給する使命を果たしていくために、青年部は広いネットワークを活かして知識や技術研鑽を行うとともに、広く交流してつながりを持つことが重要と考えます。相互扶助の精神でJA、地域が一丸となることで、この困難を乗り越えていけるものと信じております。

結びに、きたみらい農業協同組合が今後ますますご発展されますことをご祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。



部 長 昆野 将之



副部長 大関 涼雅



副部長 梶浦 貴志

役員一覧

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
役 職	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
部 長	留	荒 喜文	北	米森 弘	留	坂下修一	北	引地隆之	訓	藤森秀志	北	安斉亮一
副部長	相	森谷祐樹	置	小山勇樹	端	小林章三	訓	高城耕一	端	加藤 葵	端	斉藤正廣
理 事	上	川畑師和	訓	須河岐文	訓	佐々木利治	置	伊東憲一	留	橘 秀俊	相	星加陽平
	温	東海林健	温	福田政行	置	伊東憲一	置	片桐敏史	相	星加陽平	置	結城有一
	留	坂下修一	置	中川 隆	訓	高城耕一	訓	藤森秀志	訓	上原寛隆	訓	鏡 浩二
	相	小野博之	訓	佐々木利治	端	中野洋介	上	大林宏信	端	斉藤正廣	北	石原正啓
	置	小山勇樹	北	福井啓之								
	上	景政大雄	端	小林章三								
	端	赤塚洋介										
代表監事												
監 事	訓	須河岐文	留	坂下修一	北	引地隆之	留	橘 秀俊	置	篠木雄一郎	温	児玉友和
	北	米森 弘	相	小野博之	温	福田政行	端	加藤 葵	北	安斉亮一	端	菅原友和
部員数	328名		317名		302名		290名		263名		263名	

	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
役 職	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
部 長	北	石原正啓	置	有馬慎吾	置	有馬慎吾	端	貝沼隼人	訓	昆野将之
副部長	端	斉藤正廣	訓	上杉勇二	訓	上杉勇二	相	大武弘幸	温	大関涼雅
理 事	訓	鏡 浩二	留	坂下祐太	留	坂下祐太	置	野里智也	上	梶浦貴志
	訓	上杉勇二	温	長尾竜機	相	大武弘幸	温	大関涼雅	相	高橋竜也
	北	萩原涼太	置	遠藤泰斗	置	野里智也	訓	山本将志	置	広中 諭
	端	貝沼隼人	訓	浜田和晃	訓	林 慎也	訓	昆野将之	訓	兼安拓実
			北	鉄地河原進	上	梶浦貴志	端	川島拓磨	端	安藤康佑
代表監事			訓	鏡 浩二	訓	鏡 浩二	留	坂下祐太	端	貝沼隼人
監 事	置	有馬慎吾	端	貝沼隼人	端	貝沼隼人	上	梶浦貴志	端	川島拓磨
	留	坂下祐太								
部員数	267名		253名		227名		214名		215名	

平成25年度

JAきたみらい青年部主催のヨーロッパ農業視察研修を実施。部員17名が参加し、海外の農業事情を学んだ。また8支部合同で「ソフトボール大会」を開き、各支部間の交流を図るとともに、部員間の結束を強めた。



ヨーロッパ農業視察研修（ドイツにて）

平成26年度

8支部のうち上常呂支部が北見支部に合併され、7支部体制となった。青年部としては初の試みとなる実施日を選択制とした部員交流視察研修では札幌の「アサヒビール園北海道」と苫小牧の「北海道サニックス環境」を視察し、部員同士の交流や見聞を広めた。



部員交流視察研修（北海道サニックス環境にて）

平成27年度

相内、留辺蘂、温根湯支部が合併して西支部になり、5支部体制となった。青年部の部員交流事業のスポーツ交流会ではリレーや綱引きなど5種目からなる運動会を行い、部員約100人が参加。支部の垣根を越えて交流を深めた。



スポーツ交流会で白熱した綱引き

平成28年度

生産組織等で対外的に対応する場面が増えてくることを想定し、社会人としての身だしなみについての学習会を開催。社会人としての自覚を再認識する機会となった。また、部員交流視察研修は3回に分けて開催し、旭川の「高砂酒造」と江別の「ヤンマーアグリジャパン」を視察。合わせて90名が参加した。



身だしなみを学ぶ部員たち

平成29年度

例年開催しているスポーツ交流会に新人職員も参集し、部員だけでなく職員との交流も図った。4年に一度の海外農業視察研修はオーストラリアを訪れ、農場や農機会社、卸売市場などを視察。海外の農業事情について知識を深めた。



海外農業視察研修（オーストラリアにて）

平成30年度

訓子府、置戸支部が合併し南支部が、端野、上常呂、北見支部が合併し東支部が設立。西支部と合わせて3支部体制となった。担い手対策事業として本部主催で婚活事業を実施。メイン企画として婚活ツアーを実施し、10組程度のマッチングに成功した。



婚活ツアー（大江本家にて）

令和1年度

組合員と職員の新しいコミュニケーションツールの構築を目的として、JAコネクトの試験運用を部員共同研究と位置づけ、実装に向けて開発元との意見交換や使用感の確認を行った。北見市農林水産観光会議への出席や酵母菌の研究家とタッグを組んだ農産物のアピール活動など、他業種・他機関との交流事業も展開し、きたみらい農業のアピールを行った。



JAコネクト意見交換会

令和2年度

新型コロナウイルスの感染拡大により農畜産物の需要が減少するとともに、青年部事業も大幅に制限された。そのような中でもできる取り組みとして農業PRを核に事業を展開し、地元老舗和菓子店とタッグを組み、きたみらい公認どら焼きを制作した。



完成したどら焼きを手に

令和3年度

令和2年度に続き事業活動が大幅に制限されたため、農業PRを軸に活動を展開。全国展開の農業PRを目標に、YouTubeインストリーム広告に制作した農業PR動画をCM起用したほか、生産者一人ひとりの農業に対する思いを発信し、産地を見える化する取り組みとして、広告から飛べるランディングページ「CRAFT FOOD CITY KITAMI」を制作した。



生産者の思いを紹介したランディングページ

令和4年度

農作業事故の低減に向けた事業を柱に活動。ホクレンと(株)クボタを招いて農作業事故学習会を実施し、個々の事故防止意識の再確認を行うとともに、農作業事故撲滅フラッグを制作し、全戸配布による啓蒙活動も実施。令和3年度から進めるCRAFT FOOD CITY KITAMIの作り手紹介についても、コンテンツの拡充を行い農業PRを継続的に行った。



農作業事故撲滅に向けて

JAきたみらい女性部

設 立 平成16年3月3日
部員数 175名
部 長 宮下 美由紀

主なできごと

2013.2.17	JAきたみらい女性部第9回通常総代会
2013.6.6	JA常勤役員との意見交換会
2013.7.7	支部合同活動「視察研修」(札幌・千歳方面)
2013.7.25	全道TPP集会
2013.11.8	合併10周年記念式典・感謝の集い並びに祝賀会
2013.12.9	外郭三組織合同視察研修
2014.1.29	オホーツクJA女性部大会・家の光大会
2014.2.19	JAきたみらい女性部第10回通常総代会
2014.6.4	JA常勤役員との意見交換会
2014.11.17	四国(高知県)農業視察研修
2014.11.28	支部合同活動「部員研修会」(フラワーアレンジメント他)
2014.12.10	三組織合同設立10周年式典
2015.2.3	オホーツクJA女性部大会・家の光大会並びに設立60周年記念式典
2015.2.18	JAきたみらい女性部第11回通常総代会
2015.2.18	「JA介護福祉事業を求める要望書」提出
2015.6.5	JA常勤役員との意見交換会
2015.7.1	JA高知市女性部との意見交換会
2015.7.9	支部合同活動「部員交流視察研修」(札幌・石狩方面)
2015.11.11	第28回JA北海道大会
2015.12.8	三組織合同視察研修
2016.2.1	オホーツクJA女性部研修大会・家の光大会
2016.2.15	JAきたみらい女性部第12回通常総代会
2016.6.7	JA常勤役員との意見交換会
2016.11.18	支部合同活動「部員交流研修会」(お茶の淹れ方講座他)
2016.11.22	九州農業視察研修
2016.11.30	三組織意見交換会
2017.2.1	オホーツクJA女性部研修大会・家の光大会
2017.2.14	JAきたみらい女性部第13回通常総代会
2017.6.5	農作業安全講習会(フレッシュミズ合同)
2017.6.25	支部合同活動「部員交流視察研修①」(札幌市)
2017.6.29	JA常勤役員との意見交換会
2017.7.9	支部合同活動「部員交流視察研修②」(札幌市)
2017.11.30	三組織意見交換会
2017.12.12	三組織合同視察研修
2018.2.1	オホーツクJA女性部研修大会・家の光大会
2018.2.15	JAきたみらい女性部第14回通常総代会
2018.6.11	JA常勤役員との意見交換会
2018.6.26	支部合同活動「部員交流視察研修①」(小樽市)
2018.7.5	支部合同活動「部員交流視察研修②」(小樽市)
2018.11.11	新潟・東北農業視察研修
2018.11.30	三組織意見交換会
2018.12.11	三組織合同視察研修
2019.2.1	オホーツクJA女性部研修大会・家の光大会
2019.2.13	JAきたみらい女性部第15回通常総代会
2019.6.13	JA常勤役員との意見交換会
2019.7.16	北大共同研究
2019.11.18	支部合同活動「部員交流研修会」(コーヒーの淹れ方講座他)
2019.12.10	三組織合同視察研修
2020.2.4	オホーツクJA女性部研修大会・家の光大会
2020.2.17	JAきたみらい女性部第16回通常総代会
2020.4.17	「手作りマスクの作り方」イラスト送付
2020.6.22	「ヒマワリの花種子」配布
2020.11.19	「マスク・消毒用ハンドジェル」配布
2021.2.15	JAきたみらい女性部第17回通常総代会(書面議決)
2021.7.16	子ども食堂への食材提供①
2021.10.14	子ども食堂への食材提供②
2021.11.16	第30回JA北海道大会
2022.2.15	JAきたみらい女性部第18回通常総代会(書面議決)
2022.6.23	支部合同活動「部員交流視察研修①」(白老・札幌方面)
2022.7.7	支部合同活動「部員交流視察研修②」(白老・札幌方面)
2022.11.15	福井・石川農業視察研修
2022.12.13	三組織合同視察研修

「女性のパワーで明るい地域農業に」

JAきたみらい女性部

部 長 宮下 美由紀

きたみらい農業協同組合の設立20周年、心からお慶び申し上げます。

また、日頃から当女性部に対しまして、ご指導とご厚情を賜り心より感謝申し上げます。

JAの合併から遅れること1年、平成16年3月に約600人の部員が結集して立ち上がった当女性部ですが、現在は175名で活動しています。「魅力ある女性部活動」をキーワードに、部員が「参加して良かった」と感じる活動の企画、減少する部員数に歯止めをかけるための勧誘活動などに取り組んでいます。

日々、農業を取り巻く情勢が厳しさを増す中、このJAきたみらいが明るい地域農業を作っていくためには組織として一つとなり、協力することが重要であり、私たち女性の力も大きなエネルギーになるのではないのでしょうか。女性部としてできることを考え、SDGsの理念と絡めながら女性ならではの発想を活かし、行動に移していくことが私たちの使命だと思います。地域貢献活動や視察研修、講習会などを通じて見識を広めるなどJA女性部としてできることはたくさんあり、息抜き場として家事や育児、農作業についてのちょっとした会話、地域を超えた友人作りができるのもメリットの一つです。これらの活動を実践することで、部員がパワフルに、そしてJAが元気になることを確信しています。そのためには、ご家族の皆さんやJAのご協力が不可欠ですので、女性が活躍し、明るい地域農業実現のために皆様のご支援とご協力を切に願うものです。

最後になりましたが、きたみらい農業協同組合のますますのご発展をご祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。



部 長 宮下 美由紀



副部長 兼安 美由紀



副部長 萬城 一葉

役員一覧

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
役 職	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
部 長	置	斉藤のり子	置	斉藤のり子	置	斉藤のり子	留	武田志津子	訓	北野はるみ	訓	小林まゆみ
副部長	北	黒須倫子	北	黒須倫子	北	黒須倫子	北	黒須倫子	西	茂住真澄	置	河野智子
	相	川岸啓子	訓	齊藤晴美	温	山梨則子	訓	中山町子	端	中 智子	端	松下明美
理 事	温	牧野千代	相	森谷美佐江	留	武田志津子	温	下込絹恵	置	河野智子	西	大関悦子
	留	飯田恵津子	置	有馬郁子	相	林 秀子	留	茂住真澄	訓	小林まゆみ	置	柏原千恵子
	相	星加智子	訓	林比呂子	訓	中山町子	相	北村陽子	北	米森美恵子	訓	河合三枝
	置	東海林静子	上	合田明子	上	山本純子	置	中尾のぶ子	端	松下明美	端	嶺三紀子
	訓	齊藤晴美	北	和田祥子	北	佐伯真由美	訓	北野はるみ				
	上	河野由美子	端	山腰育子	端	植村礼子	上	溝手範子				
監 事	北	井上峰子	温	山梨則子	温	永江美貴子	北	米森啓子	西	大武豊子	上	河野由美子
	訓	杉本千恵子	留	橘 佳子	置	嘉藤常子	端	中 智子	上	角田優子	北	小川美代子
部員数	305名		284名		265名		257名		234名		231名	

	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
役 職	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
部 長	上	河野由美子	訓	細川美重子	北	信田佐和子	端	川島睦美	北	宮下美由紀
副部長	訓	河合三枝	置	中澤ひさ子	訓	南まゆみ	置	堺 敦子	訓	兼安美由紀
	端	嶺三紀子	北	小野里美	上	草場佳子	訓	今野浩美	上	萬城一葉
理 事	西	石井加代子	西	牧野千代	訓	今野浩美	西	茂住真澄	西	飯田弥生
	訓	細川美重子	置	齊藤さおり	上	馬場佳江	置	大和谷由理	訓	佐藤真美子
	上	溝手範子	訓	南まゆみ	北	齊藤はるみ	訓	兼安美由紀	上	森田幹子
	端	安藤幸子	端	古屋君江	端	川島睦美	端	福原良子	端	小林千鶴子
監 事	置	中澤ひさ子	上	草場佳子	西	武田志津子	上	萬城一葉	置	大槻由紀江
	北	小野里美	北	信田佐和子	置	堺 敦子	北	宮下美由紀	北	古瀬市子
部員数	231名		222名		208名		195名		177名	

平成25年度

支部合同活動では視察研修を行い、1日目は劇団四季「美女と野獣」鑑賞、北海道日本ハムファイターズのプロ野球観戦の選択制で実施。約50%の参加率で盛会に終えた。また、本部役員が中心となり、TPP交渉参加反対を表明する運動に積極的に参加した。



プロ野球観戦の様子

平成26年度

支部合同活動の研修会では、午前に音楽療法士の高本恭子氏の講演、午後からは部員が研修内容（フラワーアレンジメント・歌謡ビクス）を選択する形で実施。11月にJA高知市女性部との交流会を主とした高知県農業視察研修、12月に設立10周年記念事業をJA青年部・JAフレッシュミズとともに実施した。また、JAが主体となった介護福祉事業に対する要請活動の一環として、女性部員を対象とした説明会の開催、意向調査を行った。



高知県農業視察研修での集合写真

平成27年度

支部合同活動での視察研修では、劇団四季「CATS」鑑賞、ホクレンパルライスの工場見学を行い、5割以上の部員が参加した。前年度に訪問したJA高知市女性部が来北し、交流会や意見交換会を行い、絆を深めた。女性部から要望した「JAに求める介護福祉事業」では、JAで相談窓口を開設し、専門相談員を配置することとなった。



視察研修の様子

平成28年度

11月に3泊4日の九州農業視察研修を実施。長崎県のグラバー園や平和記念公園、佐賀県では有田焼きの陶芸体験を行い、参加した49名の部員は有意義な研修となった。支部合同活動の研修会では、安達祐子氏による講演や講習会を実施。フレッシュミズにも声掛けし、延べ約130名が参加した。



九州農業視察研修での集合写真

平成29年度

前年度6月に開設された「JA生活相談員」との連携・協調を図るため、本部役員との意見交換会、支部主催の介護保険制度に関する研修会などを積極的に開催した。支部合同活動の視察研修では、部員の参加率向上に向けて行程を2コース、日程を2回に分けた結果、120名と多くの部員が参加した。



西支部介護保険制度の研修会

平成30年度

新潟・東北農業視察研修では、郷土菓子作り体験や食育施設、直売所の見学、東日本大震災の津波被災地訪問などを通じ、見聞を広めたほか、部員同士の交流を深めた。JAフレッシュミズとの合同研修会を通じて、徐々に女性部との兼部者が増えており、新しい女性組織の形を考える手掛かりとなった。



新潟・東北農業視察研修での様子

令和1年度

支部合同活動の研修会では、南極料理人として知られる西村淳氏による講演、部員選択制とした3種類の講習会を開催。JAフレッシュミズ会員にも声掛けし、約100名が参加した。若い世代へのアプローチとして、この年からJAフレッシュミズと兼部する部員の金銭的な負担軽減を目的とした施策を講じた。



部員交流研修会
おいしいコーヒーの入れ方を学ぶ部員

令和2年度

過去に類をみない新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの活動を自粛、中止といった対応を迫られ、組織活動の重要性を痛感した1年となった。そのような状況下でもできる活動を探し、マスクや消毒用ハンドジェル、「手作りマスクの作り方」イラスト、部員を元気づけるヒマワリの花種子の配布を実施した。西支部の相内地区では、相内支店との協力で、例年行っている花壇づくりを行った。



花壇づくりを行う部員

令和3年度

昨年度に引き続き、感染症への対応として多くの活動の自粛、中止の対応が迫られた。そのような中、SDGsの取組みの一環として、北見市内子ども食堂への食材提供やオリジナル買い物カゴ、エコバッグの部員配布を行った。また、役員研修で企画開発グループとの意見交換会を行い、女性ならではの目線でアイデアを伝え、農協事業に参画した。



子ども食堂への食材提供

令和4年度

新型コロナウイルス感染症の影響を残す中、対策を徹底し、部員交流視察研修や国内農業視察研修で久しぶりの全体活動を行い、部員間の交流を深めた。本部役員研修では、金融共済事業について学習し、農協事業への理解を深めた。



国内農業視察研修での集合写真

JAきたみらいフレッシュミズ

設 立 平成16年2月12日
会 員 数 46名
会 長 有馬 芳枝

主なできごと

2013.2.18	第9回通常総代会
2013.4.2~3	役員研修
2013.6.6	JA常勤役員との意見交換会
2013.6.12	学習する組織への改革推進協議会
2013.6.27	TPPを考えるフォーラム
2013.7.1~2	8支部合同視察研修
2013.7.22	TPPから「地域」「暮らし」「いのち」を守るオホーツク総決起集会
2013.10.6	JAきたみらい「ふれあい農業祭」に参画
2013.10.29	学習する組織への改革推進協議会
2013.11.12	8支部合同活動会員研修会
2013.12.2~3	オホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会
2013.12.9~12	外部組織合同視察研修
2014.1.21~24	きたみらい馬鈴薯振興会道外販売推進
2014.2.20	第10回通常総代会
2014.4.3~4	役員研修
2014.6.4	JA常勤役員との意見交換会
2014.7.18	8支部合同学習会
2014.11.20	8支部合同活動会員研修会
2014.11.25~27	国内農業視察研修
2014.12.3~4	オホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会
2015.1.28~29	第20回JA北海道女性協フレッシュミズ部会北海道交流集会
2015.2.20	第11回通常総代会
2015.4.1~2	役員研修
2015.6.1	JA常勤役員との意見交換会
2015.6.19	8支部合同学習会
2015.11.13	8支部合同活動会員研修会
2015.11.30~12.1	JAオホーツク女性協フレッシュミズ部員研修会
2015.12.8~10	青年部・女性部・フレッシュミズ三組織合同視察研修
2016.1.26~27	第21回JA北海道女性協フレッシュミズ部会北海道交流集会
2016.2.16	第12回通常総代会
2016.3.31~4.1	役員研修
2016.6.7	JA常勤役員との意見交換会
2016.7.5~6	会員交流視察研修
2016.7.6	会員交流日帰り研修
2016.11.15	会員交流研修会「運動会」
2016.12.6~7	オホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会
2017.2.15	第13回通常総代会
2017.4.3~4	役員研修
2017.6.29	JA常勤役員との意見交換会
2017.7.6~7	会員交流視察研修
2017.7.7	会員交流日帰り研修
2017.11.15	会員交流研修会「運動会」
2017.12.4~5	オホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会
2017.12.12~14	青年部・女性部・フレッシュミズ三組織合同視察研修
2018.1.29~30	第22回JA北海道女性協フレッシュミズ部会北海道交流集会
2018.2.16	第14回通常総代会
2018.3.29~30	役員研修
2018.6.11	JA常勤役員との意見交換会
2018.6.14	会員交流日帰り研修
2018.7.3~4	会員交流視察研修
2018.11.15	会員交流研修会「運動会」
2018.11.27	JAきたみらい人づくり審議会
2018.12.4~5	オホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会
2018.12.11~13	青年部・女性部・フレッシュミズ三組織合同視察研修
2019.1.31~2.1	第23回JA北海道女性協フレッシュミズ部会北海道交流集会
2019.2.14	第15回通常総代会
2019.3.28~29	役員研修
2019.7.2~3	会員交流視察研修
2019.7.18	会員交流日帰り研修
2019.11.14	会員交流研修会「運動会」
2019.11.25~27	国内農業視察研修
2019.12.4~5	オホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会
2019.12.10~12	青年部・女性部・フレッシュミズ三組織合同視察研修
2020.2.18	第16回通常総代会
2021.1.19	女性部・フレミズ合同役員研修会
2021.2	第17回通常総代会（書面議決）
2021.11.30	オホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会
2022.2	第18回通常総代会（書面議決）
2022.5.27	本部役員研修
2022.7.1、7.6	会員交流日帰り研修
2022.11.28	オホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会
2022.12.13~15	三組織合同視察研修

「自分らしく活躍できる 活動を目指して」

JAきたみらいフレッシュミズ

会 長 有馬 芳枝

JAきたみらいが設立20周年の記念すべき節目を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。また日頃より本フレッシュミズ活動へのご指導、ご支援をいただき深く感謝申し上げます。

JAきたみらい設立より1年ほど後、8支部219名で活動をスタートさせたフレッシュミズですが、会員の減少などを理由に統合が進み、現在は3支部46名で活動を行っております。さらに令和6年度には支部制を廃止し、活動の一本化を予定しております。会員数の減少は寂しいことではありますが、減少の理由は決してマイナスなことばかりではなく、個がより尊重される時代への移り変わり、生活の多様化、いわゆる「農家の嫁」をとりまく状況が改善されてきたこともあると考えられます。今まで活動されてきた諸先輩方に感謝しつつ、これからもフレッシュミズ活動が会員の仲間づくり、情報交換、リフレッシュなどの場として存続し、より充実した活動ができるよう試行錯誤を続けてまいります。

最後になりましたが、これからもフレッシュミズ世代がより自分らしく活躍できる時代になるよう変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、JAきたみらいの益々の飛躍とご発展をお祈り申し上げます。



会 長 有馬 芳枝



副会長 牧野 美穂



副会長 萩原 知香

役員一覧

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
役 職	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
会 長	上	穴田優子	留	坂下あゆみ	北	西島由華	北端	米森絵里香	置	松崎久美	西	大橋加奈子
副会長	置	安斉千春	置	渡邊美和	上	大丸美喜子	西	水野美香	西	坂下晴香	訓	山川由美子
理 事	訓	中西智子	北	米森こず恵	置	森脇由記	置	小林由紀子	上	川畑美由紀	上	吉田このみ
	温	山上志和	温	児玉香織	温	大原美雪	西	坂下晴香	置	片桐志穂	西	伊藤里美
	留	坂下あゆみ	留	庄司明美	留	橘 美咲	置	松崎久美	訓	山川由美子	訓	大澤由美子
	置	渡邊美和	置	森脇由記	置	小林由紀子	訓	南 香代	上	吉田このみ	北端	仲山美知
	訓	藤森 彩	訓	佐藤亜弓	訓	安斉由紀子						
監 事	北	米森こず恵	相	小野剛美	上	長部 舞						
	端	間村絵美	北	西島由華	北	米森絵里香						
会 員 数	相	森谷美生	上	大丸美喜子	相	水野美香	上	川畑美由紀	西	大橋加奈子	上	草場久美子
	上	上野さち子	端	丸本有香	端	五十嵐里香	北端	井上真子	北端	佐藤亜希子	置	篠原亜実
	147名		135名		136名		125名		127名		112名	

	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
役 職	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
会 長	東	仲山美知	南	森 梓	東	梶浦 唯	西	藤田紗苗	南	有馬芳枝
副会長	西	伊藤里美	西	山本理恵	南	中川美恵	南	林 みお	西	牧野美穂
理 事	置	篠原亜実	東	安斉里実	西	福田由佳理	東	斉藤未来	東	萩原知香
	置	小木佳子	南	中川美恵	西	藤田紗苗	南	有馬芳枝	東	刈谷鮎美
	訓	森 梓								
監 事	東	安斉里実	西	福田由佳理	南	林 みお	西	牧野美穂	南	河合美佳
	西	山本理恵	東	梶浦 唯	東	斉藤未来	東	萩原知香	西	萩原結香
会 員 数	93名		79名		65名		60名		46名	

平成25年度

恒例行事となり、5回目を迎えた「8支部合同活動会員研修会」では、運動会と懇親会を実施。半数近い参加率となり、盛会に終えることができた。さらに初めて「視察研修」を実施。1泊研修であったため、過去の合同活動とは違った雰囲気での交流を深めることが出来た。これを機に8支部全体での一体感をより強める兆しが見えた事業となった。



視察研修（道新総合印刷本社 フムフム館にて）

平成26年度

フレッシュミズとして初めて2泊3日の「国内農業視察研修」を実施。静岡県内のJAあいら伊豆や神奈川県横浜市の中央卸売市場などを視察。新たな試みからさらに多くの女性農業者にフレッシュミズ活動の興味を持ってもらうため、未加入者への加入促進活動にも積極的に取り組んだ。フレッシュミズ設立10周年記念事業として、JAきたみらい青年部・女性部との合同で記念誌の発行や記念式典を開催した。



相鉄ローゼン鎌倉深沢店で各パイヤーからの説明を受ける

平成27年度

平成23年以降毎年実施されている「JA常勤役員との意見交換会」を開催した。農協事業やフレッシュミズを始めとした組織活動をより良くするために、現状の問題点や今後の課題、要望などについて活発に話し合った。フレッシュミズへの加入啓蒙や各種生産組織への活動に参加しやすい環境づくり等フレッシュミズならではの視点から意見や要望を述べた。



JA常勤役員と意見を交換する様子

平成28年度

フレッシュミズ初の試みとして8支部合同の「日帰り研修」を実施。東藻琴村（現・大空町）の乳酪館や小清水町のほがじゃ小清水北陽工場を視察。様々な経営形態や家庭環境がある中でもより多くの会員が参加出来るように企画した。例年実施している学習会では、グループディスカッション方式を取り入れたことで、会員同士で悩みや農業への思いを共有する機会となった。



乳酪館にてバター作りを体験

平成29年度

毎年恒例となっている「会員交流視察研修」を実施した。遠軽町では新規就農した後、農家民宿や農家レストラン等農業を基盤に様々な事業を展開している「えづらファーム」と新潟県を本社に構えた米菓の製造企業「岩塚製菓」の千歳工場を視察した。また、JA食農教育活動や女性部支部活動への参加等、青年部や女性部、地域住民との繋がりを深める活動も実施することが出来た。



会員交流視察研修（えづらファームにて）

平成30年度

昨年に続き、会員交流事業を積極的に行う中、役員で意見を出し合い、毎年新たなレクリエーションを取り入れている「運動会・懇親会」を実施。玉入れや借り物競争など考案した7種目を5チームに分かれて競技した。終了後には会員に実施したアンケートを基に、本部役員で今後の組織活動に活かすための反省会を行った。



運動会で競い合い交流を深める会員

令和1年度

平成26年以来、2回目の「国内農業視察研修」を実施。群馬県の味の素冷凍食品関東工場ではきたみらい産玉ねぎを使用した商品の説明を受け、工場内を見学。また、東京都の豊洲市場ではきたみらい産の農産物の流通や品質評価について意見交換を行った。その他、1泊2日の「会員交流視察研修」と「日帰り研修」も実施する等積極的な会員交流事業を行った。



国内農業視察研修（味の素冷凍食品株式会社にて）

令和2年度

新型コロナウイルス感染症の全国的な発生・拡大により、フレッシュミズ活動も自粛を余儀なくされたが、JA全国女性協議会で制作されたSDGsとフレッシュミズのPR資材「JA女性組織フレッシュミズSDGsかるた」の購入活動が行われた。かるたは、食事の大切さや農業の役割などを子どもたちに伝える食農教育活動の一環としてフレッシュミズ会員がSDGsを分かりやすく伝えることを目的に制作され、幅広い年代で楽しみながらJA女性組織の取組みをPRした。



JA女性組織フレッシュミズSDGsかるた

令和3年度

コロナ禍での情勢を注視しながら、徐々にフレッシュミズ活動を再開した。コロナ禍が落ち着いてきた11月にオホーツクJA女性協フレッシュミズ部員研修会にWebで参加し、12月には各支部で冬期研修会を実施した。西支部はポーセラーツ作り、南支部はアロマクリーム作り、東支部ではパン作りに取り組んだ。少ない活動回数の中でも会員交流を行うことが出来て有意義な活動になった。



東支部冬期研修会にてパン作りに取り組む会員

令和4年度

コロナ禍も終息に向かい、昨年実施することが出来なかった6月の各支部夏期研修会も行うことが出来た。西支部はパーソナルカラー診断、南支部は体の歪み改善や疲れを軽減するヨガ講座、東支部は地元産小麦「春よ恋」を使用したパン作りに取り組んだ。



西支部夏期研修会（パーソナルカラー診断）

女性・青年組織、 生産組織、団体のあゆみ

きたみらい 玉葱振興会

きたみらい玉葱振興会

設 立 平成15年3月18日
会 員 数 423名
会 長 加藤 英樹

主なできごと

2013/2/21	第11回きたみらい玉葱振興会通常総会
2013/7/29～8/1	府県販売推進（三役～大阪、名古屋、東京協議会開催）
2013/11/13～14	道内視察研修（富良野・岩見沢玉葱選果場・札幌中央市場・ホクレン本所 会員29名参加）
2013/12/2～6	A班・B班による府県販売推進（16名参加）
2014/1/16	きたみらい玉葱振興会市場協議会（市場30社、会員208名参加）
2014/2/24	第12回きたみらい玉葱振興会通常総会
2014/7/17	生産者全体交流会（記念公演：東京青果 河田社長、197名参加）
2014/7/29～8/1	府県販売推進（三役～九州、大阪、名古屋、東京協議会開催）
2014/11/12～13	道内視察研修（富良野・岩見沢玉葱選果場・札幌中央市場・ホクレン本所 会員31名参加）
2014/12/1～5	A班・B班による府県販売推進（16名参加）
2015/1/15	臨時役員会議（加工業務用野菜生産者協議会推進事業に係る取り組みについて）
2015/1/15	きたみらい玉葱振興会市場協議会（市場18社、会員、JA職員など133名参加）
2015/2/17	第13回きたみらい玉葱振興会通常総会
2015/4/10	ネギハモグリバエの対策に係る講習会（会場：調子府、相内、センター）
2015/6/17	ネギハモグリ対策に関する協議（三役）
2015/6/20	ネギハモグリバエ一斉防除
2015/7/8	生産者全体交流会（市場3社、会員、JA職員など192名参加）
2015/7/28～29	府県販売推進（三役～関東、名古屋、関西中四国協議会開催）
2015/11/11～12	道内視察研修（富良野・岩見沢玉葱選果場・札幌中央市場・ホクレン本所 会員32名参加）
2015/11/30～12/4	A班・B班による府県販売推進（15名参加）
2016/1/15	きたみらい玉葱振興会市場協議会（市場など21社、会員136名参加）
2016/2/26	第14回きたみらい玉葱振興会通常総会
2016/4/7	ネギハモグリバエの対策に係る講習会（会場：調子府、相内、センター）
2016/7/4	生産者全体交流会（市場4社、会員、JA職員など198名参加）
2016/7/26～29	府県販売推進（三役～九州、関西中四国、名古屋、関東協議会開催）
2016/11/9～10	道内視察研修（富良野・岩見沢玉葱選果場・札幌中央市場・ホクレン本所 会員32名参加）
2016/11/28～12/2	A班・B班による府県販売推進（14名参加）
2017/1/18	きたみらい玉葱振興会市場協議会（市場など24社、会員135名参加）
2017/2/23	第15回きたみらい玉葱振興会通常総会
2017/6/3	相内新玉ねぎ選果場 安全祈願祭
2017/6/5～6	超選出し出荷市場（仙台、東京）着検確認（三役にて実施）
2017/7/6	生産者全体交流会（市場12社、会員、JA職員など205名参加）
2017/7/27～29	府県販売推進（三役～名古屋、関東、東北協議会開催）
2017/11/15～16	道内視察研修（富良野・岩見沢玉葱選果場・札幌中央市場・ホクレン本所 会員30名参加）
2017/11/27～12/1	A班・B班による府県販売推進（14名参加）
2018/1/17	きたみらい玉葱振興会市場協議会（市場など26社、会員139名参加）
2018/2/21	第16回きたみらい玉葱振興会通常総会
2018/4/5	SN-1栽培講習会（会場：センター事務所・相内地区事務所）
2018/5/18	超選出し選果場及び品質確認（調子府選果場）
2018/6/21～22	道内産地視察（役員・富良野・岩見沢園圃、ホクレン本所）
2018/7/5	生産者全体交流会（市場13社、会員、JA職員など190名参加）
2018/7/12	SN-1現地栽培講習会（場所：技術センター、午前・午後2回）
2018/7/30～8/1	府県販売推進（三役～九州、関西中四国、関東協議会開催）
2018/11/12～16	海外（台湾）視察研修（高雄～西郷～台北 会員25名参加）
2018/11/26～30	A班・B班による府県販売推進（13名参加）
2019/1/16	きたみらい玉葱振興会市場協議会（市場など27社、会員128名参加）
2019/2/20	第17回きたみらい玉葱振興会通常総会
2019/4/1～2	SN-1及びSN-3栽培講習会（センター・調子府・相内にて実施 出席者132名）
2019/6/19～20	道内産地視察（役員・富良野・岩見沢園圃、ホクレン本所、札幌みらい中央青果）
2019/6/27	相内玉ねぎ集出荷施設 修築式（出席者336名 内振興会役員 67名 市場関係者109社）
2019/7/10	SN-1及びSN-3栽培講習会（出席者116名）
2019/7/24	JAタッパー施設整備検討委員会
2019/7/29～31	府県販売推進（三役～九州、関西中四国、中京、関東協議会開催）
2019/10/31	常勤役員との意見交換会（出席者 三役）
2019/11/13～14	道内視察研修（富良野・岩見沢玉葱選果場・札幌中央市場・ホクレン本所 会員29名参加）
2019/11/18	JAタッパー施設整備検討委員会
2019/11/25～29	A班・B班による府県販売推進（16名参加）
2020/1/15	きたみらい玉葱振興会市場協議会（市場など28社、会員183名参加）
2020/1/22～23	SN-1、SN-3栽培講習会（センター・調子府・相内にて実施 出席者166名）
2020/2/21	第18回きたみらい玉葱振興会通常総会
2020/7/10	SN-1及びSN-3栽培講習会（出席者163名）
2020/7/28	JAきたみらい玉葱販売対策会議（三役～市場6社、ホクレン各支店7名）
2020/10/13	「第50回日本農業賞」北海道審査（きたみらい玉葱振興会） 会長出席
2021/1/9	「第50回日本農業賞」（きたみらい玉葱振興会）
	出席者 加藤会長、今野副会長、北川副会長、森部青年部長、小野元会長、土山元会長、飯田前会長
2021/1/21	市場協議会（オンライン開催）（役員・市場13社）
2021/1/29	「第50回日本農業賞」大賞受賞 決定
2021/2/17	第19回きたみらい玉葱振興会通常総会
2021/3/6	第50回日本農業賞「大賞」受賞 表彰式（オンライン形式）
	出席者 加藤会長、今野副会長、北川副会長、小野元会長、土山元会長、飯田前会長
2021/4/6～7	SN-3栽培講習会（出席者136名）
2021/6/2	JA玉葱基盤処理施設 修築式（三役出席）
2021/8/31	令和3年度 農林水産部中央審査委員会園芸分科現地調査（オンライン形式）
	出席者 加藤会長、今野副会長、北川副会長、森部青年部長、小野元会長、土山元会長、飯田前会長
2021/10/6	第60回農林水産部「天皇杯」受賞 決定
2021/11/10	道内主産地選果場視察（役員・富良野・岩見沢選果場）
2021/11/21～26	府県販売推進
	（三役～関東、中京、関西、九州協議会開催、農林水産部式典、武部副大臣受賞報告、ビエトロ工場視察）
2022/2/22	第20回きたみらい玉葱振興会通常総会
2022/4/5～6	SN-3栽培講習会（出席者113名）
2022/6/24	降雹被害判定基準確認及び取扱要領説明会
2022/6/29～7/2	府県販売推進（三役～九州、関西中四国、中部、関東、東北協議会開催）
2022/7/6	きたみらい玉葱振興会産消協議会（市場6社、JA常勤役員、振興会役員）
2022/7/8	SN-3栽培講習会（出席者120名）
2022/11/16	道内主産地選果場視察（役員・富良野・岩見沢選果場）
2022/11/28～12/2	A班・B班による府県販売推進（14名参加）
2023/1/16	きたみらい玉葱振興会市場協議会 4会場分散にて開催（市場11社、会員221名参加）

「周年供給実現を目指して」

きたみらい玉葱振興会
会 長 加藤 英樹

きたみらい農業協同組合が合併20周年を迎えましたことに、心よりお祝い申し上げます。

また、きたみらい玉葱振興会においても20周年を迎えることができ、これもひとえにJAきたみらい並びに関係機関各位皆様のご支援の賜物と会員一同深く感謝申し上げます。

玉ねぎを取り巻く環境は2018年のTPP締結により貿易の自由化による日本農業への大きな影響が心配されてきました。安価な海外の農産物が導入される事で日本の農業が更なる打撃を受けることの無いよう注視していかなばなりません。

今現在、生食向け販売を中心とし、加工販売などにより需給調整をし、中国を中心とした固定的な輸入品も含めながら、又物価高騰の時代となってきた中、適正な価格形成を図って参りたいと考えます。

この20年で生産戸数が減少する中、一戸当たりの栽培面積は増加傾向にあります。JA施設に目を向けますと選果場集約による令和元年の玉葱選果場の新設、令和3年のJAタッパー新設とJAきたみらいと共にきたみらい玉ねぎも大きな転換期を迎えてきました。近年、集中豪雨や降雹など異常気象による減収、廃耕など我々生産者にとっても心配の絶えない時代になってきています。消費地に対し品質はもとより、安定出荷を第一に考え、更には目標であります周年供給を実現出来る様、生産者一人ひとりが今一度きたみらい玉ねぎの産地とブランドを守るべく見つめ直していただきたいと思います。

最後になりますが、きたみらい農業協同組合の益々の発展と組織全体が更なる高みを目指す事を期待し、20周年のお祝いの言葉とさせていただきます。



20th Anniversary



会 長 加藤 英樹 副会長 雅楽川 英行 副会長 北川 裕一

役員一覧

役 職	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
会 長	訓	小野洋一	訓	小野洋一	訓	小野洋一	端	土山清隆	端	土山清隆	訓	飯田裕之
副会長	北	宮下尚樹	北	宮下尚樹	北	宮下尚樹	訓	飯田裕之	訓	飯田裕之	北	加藤英樹
理 事	端	古屋和徳	端	古屋和徳	端	古屋和徳	北	加藤英樹	北	加藤英樹	端	富樫 悟
	温	森部雅博	温	大関裕之	温	大関裕之	温	大関裕之	温	大関裕之	西	伊藤照彦
	留	澤山一之	留	澤山一之	留	澤山一之	留	飯田和浩	留	飯田和浩	西	大関裕之
	置	井上 一	置	井上 一	置	井上 一	置	井上 一	置	井上 一	西	飯田和浩
	訓	林 幸雄	訓	福田英治	訓	福田英治	訓	今野雅祐	訓	今野雅祐	置	井上 一
	訓	渡辺一彦	訓	山本洋昭	訓	山本洋昭	訓	林 一樹	訓	林 一樹	訓	今野雅祐
	相	岩崎隆幸	相	伊藤照彦	相	伊藤照彦	相	伊藤照彦	相	伊藤照彦	訓	雅楽川英行
	上	吉田信夫	上	穴田惣一	上	穴田惣一	上	穴田惣一	上	穴田惣一	上	穴田惣一
	北	加藤英樹	北	加藤英樹	北	加藤英樹	北	西島 剛	北	西島 剛	北	西島 剛
	端	土山清隆	端	土山清隆	端	土山清隆	端	富樫 悟	端	富樫 悟	端	北川裕一
	端	竹田幹雄	端	竹田幹雄	端	竹田幹雄	端	樫尾英司	端	樫尾英司	端	山内秀之
監 事	留	渡辺琢磨	温	北村哲治	温	北村哲治	置	森谷弘二	置	森谷弘二	南	森谷弘二
	相	北町 靖	上	田井和重	上	田井和重	相	眞田 肇	相	眞田 肇	西	眞田 肇
	北	杉山幸治	訓	岩本直樹	訓	岩本直樹	北	米森淳史	北	米森淳史	南	林 拓己
青年部	訓	岩本直樹	上	木村憲幸	上	木村憲幸	訓	林 拓己	訓	林 拓己	西	森部啓太
	端	井上貴博	北	米森淳史	北	米森淳史	上	羽鳥貴之	上	羽鳥貴之	北見	井上 満
会員数	497名		491名		501名		496名		482名		465名	

役 職	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
会 長	訓	飯田裕之	北	加藤英樹	北	加藤英樹	北	加藤英樹	北	加藤英樹
副会長	北	加藤英樹	訓	今野雅祐	訓	今野雅祐	訓	雅楽川英行	訓	雅楽川英行
理 事	端	富樫 悟	端	北川裕一	端	北川裕一	端	北川裕一	端	北川裕一
	西	伊藤照彦	西	大邑和治	西	大邑和治	西	飯田和浩	西	飯田和浩
	西	大関裕之	西	飯田和浩	西	飯田和浩	西	眞田 肇	西	眞田 肇
	西	飯田和浩	西	眞田 肇	西	眞田 肇	西	森谷淳治	西	森谷淳治
	置	井上 一	置	森谷弘二	置	森谷弘二	置	森谷弘二	置	森谷弘二
	訓	今野雅祐	訓	雅楽川英行	訓	雅楽川英行	訓	前田一真	訓	前田一真
	訓	雅楽川英行	訓	前田一真	訓	前田一真	訓	所 厚志	訓	所 厚志
	上	穴田惣一	上	西内 光	上	西内 光	上	西内 光	上	西内 光
	北	西島 剛	北	西島 剛	北	西島 剛	北	西島 剛	北	西島 剛
	端	北川裕一	端	山内秀之	端	山内秀之	端	山内秀之	端	山内秀之
	端	山内 秀之	端	桜井慎一	端	桜井慎一	端	桜井慎一	端	桜井慎一
監 事	南	森谷弘二	置	中澤光太郎	置	中澤光太郎	置	坂下修一	置	坂下修一
	西	眞田 肇	上	矢萩大寛	上	矢萩大寛	上	矢萩大寛	上	矢萩大寛
	南	林 拓己	西	森部啓太	西	森部啓太	北	井上竜介	北	井上竜介
青年部	西	森部啓太	訓	杉山正樹	訓	杉山正樹	訓	中根正登	訓	中根正登
	北見	井上 満	北	井上竜介	北	井上竜介	端	今村圭一	端	今村圭一
会員数	456名		447名		436名		429名		423名	

平成25年度

定植時期の降雪や生育期間中の低温、降水量不足、また7月の記録的な早魃により反収は4,180kgと低収量となった。品質向上対策として「きたみらい玉葱振興会 生産管理基準」を作成し品質向上に努めた。

平成25年産玉ねぎ平均反収 4,180kg/10a



10周年の節目となる産消交流会

平成26年度

収穫作業と集荷の前倒しが出来たことによる早期選果ができ、初となる盆前販売が実現し、市場などもかねてより待ち望んでいたことから取り組みに対する評価も高かった。

平成26年産玉ねぎ平均反収 5,520kg/10a



役員による圃場巡回

平成27年度

過去最大級の取扱量となったが、過去最速の選果・出荷となり、消費地からの評価は非常に高く、以降不安定な府県産からの早期切り替えが求められるようになった。

平成27年産玉ねぎ平均反収 6,158kg/10a



府県販売推進の意見交換会の様子

平成28年度

8月の収穫を目前とした中で3度に亘る台風上陸により常呂川水系の河川の氾濫により流域では未曾有の水害となった。反収は過去最大級の6,740kgとなり、JA取扱量も合併以来最高となった。この年に北見地区共計による5月・6月販売「超遅出し出荷」の試験販売が行われた。

平成28年産玉ねぎ平均反収 6,740kg/10a



府県販売推進の求評調査

平成29年度

加工業務関係は純国産野菜を原料とする商品が発売されるなど、国産回帰の動向もあり供給量が拡大し始めた。内需以外でも全道共計による台湾や韓国への輸出や、極東ロシアへの加工Sの輸出も開始され販路拡大や安定出荷確立へ向けた推進が行われた。

平成29年産玉ねぎ平均反収 6,040kg/10a



府県販売推進（福岡ソノリク岡山）

平成30年度

6月には低温・日照不足、さらには断続的な降雨などにより軟腐が多発、7月には一転して高温早魃で推移し圃場間格差の生じた年産となった。11月には台湾の消費・物流情勢を確認する視察研修を実施。

平成30年産玉ねぎ平均反収 5,825kg/10a



海外視察研修（台湾）

令和1年度

温根湯・留辺蘂・青果物センターの玉葱選果場を廃止し、新たに国内最大規模の「相内選果場」を建設し、7施設から5施設に集約された。年明け2月から新型コロナウイルスの拡大により消費者の生活形態に大きな変化が見られた。

令和元年産玉ねぎ平均反収 6,000kg/10a



市場協議会

令和2年度

過去最大級の取扱量となり、全道共計の一環である輸出は台湾を中心に全道で4万トンを超える出荷を行った。新型コロナウイルスの影響により振興会事業活動が制限されほぼ活動出来ない状況となった。「第50回日本農業賞」大賞受賞

令和2年産玉ねぎ平均反収 6,398kg/10a



第50回日本農業賞 大賞受賞

令和3年度

6月下旬からの早魃により平成25年産に次ぐ不作の年産となった。全道的な不作により供給量が需要量に追いつかず相場は高騰した。依然として新型コロナウイルスの収束は見込めない状況が続いていた。また、新施設としてJA玉葱茎葉処理施設が稼働開始。「第60回農林水産祭」最高賞天皇杯受賞

令和3年産玉ねぎ平均反収 4,862kg/10a



第60回農林水産祭 最高賞天皇杯受賞

令和4年度

6月・7月に広域に亘る大規模な降雹及び大雨が発生し、未曾有の被害となった。被害面積は玉葱作付面積の40%を超える1,999.27ha、うち489.15haが廃耕を余儀なくされた。

令和4年産玉ねぎ平均反収 6,519kg/10a



市場協議会

女性・青年組織、 生産組織、団体のあゆみ

きたみらい 玉ねぎ振興会青年部

きたみらい玉ねぎ振興会青年部

設 立 平成15年4月11日
部員数 138名
部 長 井上 竜介

主なできごと

2013.3.18	第11回きたみらい玉ねぎ振興会青年部通常総会
2013.7.11	作況調査 及び 全体交流会・共励会
2013.11.25	管内選果場視察研修（美幌広域・常呂・えんゆう・青果物センター）
2013.12.10	学習会（気象条件と収量の関係性など3項目）
2014.1.21	府県視察研修（大阪、四国、九州など4日間）
2014.3.18	第12回きたみらい玉ねぎ振興会青年部通常総会
同日	きたみらい玉ねぎ振興会青年部設立10周年記念式典
2014.7.8	作況調査 及び 全体交流会・共励会
2014.11.20	道内選果場視察研修（富良野・えんゆう選果場など2日間）
2014.12.4	学習会（ネギハモグリバエの概要など3項目）
2015.1.19	府県視察研修（東北、関東など4日間）
2015.3.17	第13回きたみらい玉ねぎ振興会青年部通常総会
2015.7.10	作況調査 及び 全体交流会・共励会
2015.11.20	管内選果場視察研修（美幌広域・常呂・えんゆう）
2015.12.10	学習会（ネギハモグリバエ対策など3項目）
2015.12.15	玉ねぎ振興会との意見交換会（将来のきたみらい玉葱について）
2016.3.17	第14回きたみらい玉ねぎ振興会青年部通常総会
2016.7.8	作況調査 及び 全体交流会・共励会
2016.11.21	道内選果場視察研修（富良野・岩見沢選果場など2日間）
2016.12.13	学習会（現品審査の仕組みなど3項目）
2017.3.17	第15回きたみらい玉ねぎ振興会青年部通常総会
2017.6.29	作況調査 及び 全体交流会・共励会
2017.11.22	管内選果場視察研修（美幌広域・常呂・端野）
2017.12.5	府県視察研修（九州、関西など4日間）
2017.12.18	玉ねぎ振興会との意見交換会（SN-1の作付課題など2項目）
2018.1.23	学習会（GAPなど4項目）
2018.3.14	第16回きたみらい玉ねぎ振興会青年部通常総会
2018.6.25	道内作況視察研修（富良野・岩見沢選果場など2日間）
2018.7.6	作況調査 及び 全体交流会・共励会
2018.12.3	府県視察研修（関東、北陸など4日間）
2019.1.23	学習会（緑肥の特性など4項目）
2019.3.15	第17回きたみらい玉ねぎ振興会青年部通常総会
2019.7.5	作況調査 及び 全体交流会・共励会
2019.8.2	学習会（精算内容について）
2019.11.21	管内選果場視察研修（美幌広域・常呂・えんゆう）
2019.12.3	府県視察研修（四国、九州など4日間）
2019.12.16	玉ねぎ振興会との意見交換会（労働不足から考える今後の農業形態など2項目）
2020.1.20	学習会（SNシリーズの腐敗事故など4項目）
2020.4.2	第18回通常総会
2020.8.7	学習会（精算内容について）
2021.3.16	第19回通常総会
2021.7.8	作況調査（Web形式）
2021.11.24	道内選果場視察研修（富良野・岩見沢選果場など日帰り）
2021.12.8	道内視察研修（釧路港ほくれん丸 日帰り）
2022.1.21	学習会（精算内容・土づくりなど3項目 Web形式5会場）
2022.3.17	第20回きたみらい玉ねぎ振興会青年部通常総会
2022.7.8	作況調査 及び 共励会
2022.8.5	学習会（精算内容について）
2022.12.5	府県視察研修（関西、名古屋、関東など4日間）
2023.1.23	学習会（後作緑肥・堆肥など4項目） 及び 全体交流会

先人達の想いを未来へ繋ぐ

きたみらい玉ねぎ振興会青年部

部 長 井上 竜介

この度、きたみらい農業協同組合の合併20周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

また、当青年部におきましても20周年の節目を迎えることができ、これもひとえに、きたみらい農業協同組合・きたみらい玉ねぎ振興会及び関係者各位皆様のご支援のお陰だと心より感謝と敬意を申し上げます。

私達が現在もこの恵まれた環境下で玉葱生産が続けられるのも、玉葱生産技術はもとより、一元出荷、共計共販など色々な先人たちの取り組みがあったこそであり、深く感謝申し上げます。

一方で、農業を取り巻く環境は国際情勢をはじめ、生産資材の高騰、高齢化が進む中での生産者の減少など依然として先行きが不透明な状況です。

またここ近年での玉葱栽培においては、極端な高温・早魃、毎年のように集中豪雨や降雪などの異常気象が続いており、品質低下・減収・廃耕など天候などに左右され高品質・安定生産の難しさを痛感させられています。それに伴い、生産者としても消費地にご迷惑をかけている結果となっていることから今まで以上に諸対策を講じる必要があると強く思うところです。

そのような中で当青年部では、多種にわたる試験や作況調査・交流会による技術情報交換、学習会等での品質向上・安定生産の維持その他栽培に関わる事などをメインに取り組んでまいりました。毎年12月には消費地へ出向き、市場の方と意見交換会を実施し、消費動向、また消費者が求めていることなど、直接耳にすることでまた新たな課題ができるなど、多岐にわたる学びをまいりました。

今後におきましても、私達青年部も諸先輩方が築き上げてきた「きたみらい玉葱」というブランドと産地を守る為、将来を担う多くの部員・仲間の交流、活動を通じ更なる技術と知識を高めあい、高品質・高収量な玉葱を作っていくため努力をして参りたいと思います。

最後にきたみらい農業協同組合並びにきたみらい玉葱振興会、各関係機関の皆様にご感謝申し上げますとともに、一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。



部 長 井上 竜介



副部長 今村 圭一



副部長 中根 正登

役員一覧

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
役 職	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
部 長	北	杉山幸治	訓	岩本直樹	訓	岩本直樹	北	米森淳史	北	米森淳史	南	林 拓己
副部長	訓	岩本直樹	上	木村憲幸	上	木村憲幸	南	林 拓己	南	林 拓己	西	森部啓太
	端	井上貴博	北	米森淳史	北	米森淳史	上	羽鳥貴之	上	羽鳥貴之	北	井上 満
理 事	温	大原直記	西	大原直記	西	大原直記	西	岩崎智浩	西	岩崎智浩	西	福田政行
	留	橘 秀俊	置	日下 巧	置	日下 巧	西	林 尚哉	西	林 尚哉	南	杉山正樹
	留	杉本勝美	訓	林 拓己	訓	林 拓己	南	須河岐文	南	須河岐文	上	大丸裕之
	置	須藤潤一	上	羽鳥貴之	上	羽鳥貴之	上	大丸裕之	上	大丸裕之	上	吉田慎司
	置	岡田 章	北	田中茂樹	北	田中茂樹	北	井上 満	北	井上 満	北	刈谷亮祐
	相	北村誠治	端	菅原有矢	端	菅原有矢	端	西川哲平	端	西川哲平	端	松下 誠
	相	菅野弘幸	端	西川哲平	端	西川哲平	端	松下 誠	端	松下 誠	端	佐藤剛士
	上	木村憲幸										
	上	矢萩大寛										
	北	田中茂樹										
	端	菅原有矢										
監 事	温	山下真司	西	杉本勝美	西	杉本勝美	西	牧野丈太郎	西	牧野丈太郎	西	林 尚哉
	訓	前田一真	置	中澤光太郎	置	中澤光太郎	南	安西良樹	南	安西良樹	南	須河岐文
部員数	193名		187名		185名		168名		159名		163名	
	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度			
役 職	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名		
部 長	南	林 拓己	西	森部啓太	西	森部啓太	北	井上竜介	北	井上竜介		
副部長	西	森部啓太	南	杉山正樹	南	杉山正樹	南	中根正登	南	中根正登		
	北	井上 満	北	井上竜介	北	井上竜介	端	今村圭一	端	今村圭一		
理 事	西	福田政行	西	森谷利隆	西	森谷利隆	西	森谷利隆	西	森谷利隆		
	南	杉山正樹	南	細川恒平	南	細川恒平	西	加藤達也	西	加藤達也		
	上	大丸裕之	上	宮本裕一	上	宮本裕一	南	細川恒平	南	細川恒平		
	上	吉田慎司	上	武田吉弘	上	武田吉弘	上	宮本裕一	上	宮本裕一		
	北	刈谷亮祐	北	刈谷亮祐	北	刈谷亮祐	上	伊藤博樹	上	山本晃久		
	端	松下 誠	端	佐藤剛士	端	佐藤剛士	北	岡崎真士	北	岡崎真士		
	端	佐藤剛士	端	今村圭一	端	今村圭一	端	沼崎雅年	端	沼崎雅年		
監 事	西	林 尚哉	西	星加陽平	西	星加陽平	西	森谷崇弘	西	森谷崇弘		
	南	須河岐文	南	北野祐作	南	北野祐作	端	今村圭一	端	今村圭一		
部員数	163名		154名		148名		146名		138名			

平成25年度

4月下旬の積雪による定植遅れ、その後の低温・早魃により非常に厳しい年産となったことから、近隣産地の生産・品質状況の確認と当JAとの比較を目的とした管内選果場視察を実施した。また、「気象条件と収量」をテーマに学習会を行い、今後の対策について学んだ。



選果場巡回

平成26年度

府県視察として、消費地市場（仙台、東京）との意見交換会、京成青果（加工業者）、サンコープランニング（パッケージセンター）へ来訪。試験については「有機質肥料による皮剥け低減試験」と「石灰質肥料による皮剥け低減試験」と2つの試験を実施し、両試験ともに一定の効果が見られた。



青年部試験調査

平成27年度

学習会では「玉葱販売情勢」「玉葱の流通と全道共販の取り組み」のほか、普及センターを講師として「ネギハモグリバエへの対策」について学んだ。玉葱生産における品質の安定化についてや、将来的に加工用途が増加することを見込んだうえでの、生産現場・産地でのコストダウン方法について玉葱振興会役員と意見交換会を行った。



共励会上位入賞者 記念品

平成28年度

試験圃場の作況調査を行い実施状況を確認。全体交流会、共励会を実施し、「品質・収量」を算定基礎として、上位者の表彰を行い今後の玉葱栽培に向けた糧とした。道内視察として富良野・岩見沢選果場の生産・品質状況の確認をしたほか、販売・流通に係る知識の向上を目的とし、札幌中央市場・札幌野菜センターを訪問した。



道内視察研修

平成29年度

府県視察研修では九州市場、関西市場との意見交換会実施。両市場とも活発な意見が飛び交い、佐賀、淡路、その他新興産地における現状を学んだほか道産玉葱に対する消費地側の期待や重要性を再認識した。試験活動として「オホーツク222晩期定植試験（2年目）」及び「根切り時期による品質確認試験」を実施し、北見地区玉葱振興会青年部研究会において、試験結果を発表した。



道外視察研修

平成30年度

道内作況視察研修において、富良野・岩見沢圃場の生育状況について確認と、双方の玉ねぎ青年部との意見交換を行った。「SN-1、SN-3栽培方法確立試験」では、根切りのタイミング等の栽培方法の確立を模索し、「黒シミ発症軽減試験」においてはpHが生育に与える影響や黒シミの発生要因のひとつであることが確認された。



道内作況視察

令和1年度

九州市場、関西市場への視察研修を実施し、市場でのSNシリーズの評価について意見を交わしたほか、(株)七宝では栽培方法の留意点について確認を行った。また、試験活動・学習会ともにSNシリーズの問題と課題解決について、青年部としても積極的に取り組み、更なる品質向上を目指した活動を行った。



選果場巡回

令和2年度

道内視察研修、作況調査・全体交流会、府県視察研修、学習会(1月)と多くの事業が新型コロナウイルス蔓延防止の観点から活動の制限を余儀なくされた。試験については「植付深度の違いによる品質確認試験」と「皮ムケ対策試験」の2つの試験を実施。これらの試験結果を基に更なる品質向上を目指した。



青年部試験調査

令和3年度

一部事業については昨年から引き続き新型コロナウイルス蔓延防止の観点から中止となったが、Webでの開催や実施規模の縮小など開催方法を検討し、可能な限り事業を実施。府県視察については、内容を変更し関東への輸送の大動脈である「ほくれん丸」を釧路港で視察した。



道内視察研修

令和4年度

引き続きコロナ禍での状況ではあったが、Webでの開催や実施規模の縮小を行いながら、ほぼ計画通りの事業を実施。特に府県視察や全体交流会については、数年ぶりの開催となったことから、改めて視察による意見交換や、同世代の交流を深めることの重要性を認識した。



道外視察研修

きたみらい赤玉葱振興会

設 立 令和2年6月5日
会 員 数 116名
会 長 佐藤 和彦

主なできごと

2020.6.5	きたみらい赤玉葱振興会設立総会並びに第1回通常総会を開催
2020.7.6	栽培技術講習会（66名参加）
2020.7.16	取扱要領説明会（32名参加）
2020.7.18	目均し会（くれない品種対象）
2020.8.7	目均し会（早生～中晩生品種）
2020.12.3	市場協議会（Web開催）
2021.2.5	第2回通常総会
2021.3.25	取扱要領説明会（27名参加）
2021.6.24	圃場巡回（役員圃場）
2021.8.7	目均し会（早生～中晩生品種）
2021.11.11～12	道内視察（旭川、札幌市場視察他）
2021.12.13	市場協議会（Web開催）
2021.12.20	市場協議会（Web開催）
2022.2.18	第3回通常総会（書面開催）
2022.6.13	栽培講習会（25名参加）
2022.6.16～17	道内視察（富良野、岩見沢圃場視察他）
2022.7.16	目均し会（くれない品種対象）
2022.8.8	目均し会（早生～中晩生品種）
2022.11.14～15	道内視察（旭川、札幌市場視察他）
2022.11.28～12.3	道外視察（東京・中四国市場、加工業者）
2023.1.17	産消懇談会（市場4社）
2023.2.3	第4回通常総会

皆様とともに

きたみらい赤玉葱振興会

会 長 佐藤 和彦

きたみらい農業協同組合が合併20周年を迎えましたことに、心よりお祝い申し上げます。

当赤玉葱振興会は、これまでに「端野町くれない生産組合」と「きたみらい赤玉葱部会」の両組織が精力的に活動を進め、お互いが切磋琢磨しながらブランドを築いて参りました。しかし、道内他産地との競争が激化する中、更なる生産振興をしていく為には、きたみらいが1つになりマーケットリーダーとして確固たるブランドを構築する必要がありました。去る令和2年2月、両組織は活動の幕を閉じ、皆様がこれまで築いてきたものを礎に「きたみらい赤玉葱振興会」を令和2年6月に設立し、新たな第一歩を踏み出しました。

設立後は、新型コロナウイルスの影響により活動が制限される中でしたが、出来る限り可能な方法で各事業の実施に当たって参りました。

また、年産によっては、干ばつやゲリラ豪雨、降雹などの被害に見舞われた年もございましたが、会員とご家族皆様のご努力と関係機関のご支援・ご指導によりこの様な年産も乗り越えてきました。

徐々にではありますが、コロナ前の状態に戻りつつあると実感しております。今後もより一層の体制強化と高品質・安定出荷を目指し、栽培技術向上のための栽培技術講習会や圃場巡回を計画し、販売面では生食・加工販売の拡大を目指しより一層の販売推進を取組んで参ります。

最後になりましたが、きたみらい農業協同組合の益々のご発展を祈り、お祝いの言葉といたします。



会長 佐藤 和彦



副会長 水口 靖一



副会長 西原 克隆

役員一覧

役 職	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
会 長	訓	佐藤和彦	訓	佐藤和彦	訓	佐藤和彦	訓	佐藤和彦
副会長	端	水口靖一	端	水口靖一	端	水口靖一	端	水口靖一
理 事	上	西原克隆	上	西原克隆	上	西原克隆	上	西原克隆
	留	坂下修一	留	坂下修一	北	福井慎一	北	福井慎一
	相	林 尚哉	相	林 尚哉	相	林 尚哉	相	林 尚哉
監 事	端	井上貴博	端	井上貴博	訓	高城耕一	訓	高城耕一
	北	福井和範	北	福井和範	留	坂下祐太	留	坂下祐太
	訓	新井山芳弘	訓	新井山芳弘	端	井上貴博	端	井上貴博
会員数	119名		118名		118名		116名	

令和2年度

これまでの「端野町くれない生産組合」「きたみらい赤玉ねぎ部会」の2組織が、組織・販売の一本化による販売強化、選果効率とコストダウン、市場占有率の拡大、ブランド強化のため、「きたみらい赤玉葱振興会」として設立。事業面では新型コロナウイルスの影響により、多くの活動が中止を余儀なくされた。



設立総会

令和3年度

6月下旬から30℃を超える猛暑が続き、8月上旬まで降雨もわずかで、生育停滞・倒伏や枯凋が進み、平年を大きく下回る収量実績となった。事業面では長期化する新型コロナウイルスの影響により、昨年に引き続き多くの活動が中止を余儀なくされた。



第2回通常総会

令和4年度

6月18日・19日、7月4日に広域に亘る大規模な降雹及び大雨があり、被害は玉葱と同様に赤玉葱に関しても甚大なものとなった。



道内視察研修